



マリオ・マルツィ : サクソフォン

パオロ・ザンニーニ : ピアノ

### マリオ・マルツィ (Mario Marzi)

イタリア・ペーザロのロッシェニ音楽院 (Conservatorio Statale di Musica “G. Rossini”) でディプロマを取得、その後、フランス・ボルドーの音楽院のジャン・マリー・ロンデックス (Jean-Marie Londeix) の下で、研鑽を続け、4つの国際コンクールと9つのイタリア国内のコンクールで優勝を重ねる。

ソリスト及びオーケストラとの活動としては、とりわけ、“ミラノ・スカラ座管弦楽団” (Teatro alla Scala) と同団を母体とするオーケストラの“スカラ・フィルハーモニー管弦楽団” (Orchestra Filarmonica della Scala) との共演が長く、20年以上に及んでおり、特に、リッカルド・ムーティとはソリストとして何度も共演している。また、ズビン・メータには、“フィレンツェ五月祭管弦楽団” (Maggio Musicale Fiorentino) のツアーにソリストとして招かれている。

そのほか、“トリノ R A I 交響楽団” (Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai di Trino)、“サンタ・チェリリア国立音楽院管弦楽団” (Orchestra dell’Academia Nazionale di Santa Cecilia)、“ヴェネツィア・フェニーチェ座管弦楽団” (Teatro alla Fenice di Venezia)、“スイス・イタリアーナ管弦楽団” (Orchestra della Svizzera Italiana) をはじめとするイタリア国内外の数々のオーケストラと、ソリストとして共演を続けている。

世界的に名高い指揮者との共演機会も多く、C. M. ジュリーニ、G. プレートル、L. マゼール、L. ベリオ、S. ビシュコフ、C. アバド、W. サヴァリッシュ、チョン・ミョンフン、G. ドウダメル、R. シャイー、D. ハーディング、A. パッパノーなど共演を重ねており、ニューヨークのカーネギーホール、ウィーンの楽友協会ホールをはじめ、世界屈指のホールでの演奏機会も多く、また、日本においても、サントリーホール（東京）やシンフォニーホール（大阪）などでも演奏している。

マルツィは、20世紀の音楽作品にも熱心に取組んでおり、当代サクソフォンにとって意義深い幾つかの作品が彼のために献呈されている。また、室内楽の分野における活動も精力的に取り組んでおり、特に、ミラノのスカラ座管弦楽団のソリストを中心に結成された“スカラ室内管弦楽団” (Ensemble Strumentale Scaligero) や、自身をリーダーとするトリオ“タンゴ・イ・アルゴ・マス” (Tango y algo mas) では、何度も来日し、好評を博している。そのほか、アコーディオンのシモーネ・ザンキーニ (Simone Zanchini) とのデュオやピアノのパオロ・ザンニーニ (Paolo Zannini) とのデュオなど、長年多くのグループで活動を続け、クラシックはもとより、現代音楽やタンゴ、ジャズなどの作品の演奏でも高い評価を受けている。

国内外の国際音楽フェスティバルやサクソフォンフェスティバルにも参加を続けており、そうした中で、国境を越えた友情で結ばれたサクソフォン・カルテット“ブロス・カルテット”（Bros Quartet）を、北アイルランド出身のジェラルド・マクリスタル（Gerard McChrystal）、スペイン出身のアントニオ・フェリペ・ベリハール（Antonio Felipe Belijar）、ポルトガル出身のジョアン・ペドロ・シルヴァ（João Pedro Silva）と結成したほか、ギターのリウジリオ・タンパリーニ（Giulio Tampalini）とのデュオや、クラリネット／サクソのアキレ・スッチ（Achille Succi）とのデュオ、さらには、作曲家で、マルチ演奏家のステファノ・イアンネ（Stefano Ianne）とパーカッション奏者のステファノ・カルヴァーノ（Stefano Galvano）とのトリオ“イアマカ”（IaMaCa）など、新たなグループでも活発な活動を展開し、コンサートのみならず、録音活動も行っている。

彼のCDは、BMG、Sony Classical、EMI、Stradivariusなどのレーベルから発売されている。クラシック・サクソのスタイルのCDとしては、ソリストとして、グラズノフのサクソフォン協奏曲や、ミヨーのスカラムーシュなどの作品を取り上げたもの（ARTS）、また、ピアノとのデュオでもフランスの作曲家の作品を取り上げたもの（Stradivarius）などがある。現代音楽の分野では、ピアノとのデュオで、イタリアの作曲家の作品を取り上げたもの（Stradivarius）や、ピアノとアコーディオンとのトリオでバルトークや東欧の民族舞曲、リゲティなどを取り上げたもの（LIMEN MUSIC）などがある。演奏活動同様に、ラテンやジャズなどクラシックの枠にとらわれない作品の録音も数多く行っており、ピアソラの“リベルタンゴ”など来日公演でも度々演奏され、好評を博している作品を録音したもの（Stradivarius など）をはじめ、即興で彩るバッハや、ミニマム・ミュージックなど、異なるグループ、スタイルでさまざまな録音を楽しむことができる。

奏者としての活動のほかに彼は、後進の指導にも熱心で、イタリア・ミラノの“G. ヴェルディ音楽院”（Conservatorio Giuseppe Verdi di Milano）で教鞭を執っているのはじめ、イタリア各地のみならず、オポルト（ポルトガル）、アムステルダム（オランダ）、フランクフルト（ドイツ）、デンバー（アメリカ）、北京（中国）など、世界各地でも毎年マスタークラスを開催しているほか、“アドルフ・サクソ国際コンクール”をはじめとする国際的なサクソフォンコンクールにおいて審査員を務める機会も多い。

また、イタリアのゼッキニーニ出版社から、サクソフォンの歴史から技術までを網羅した専門書“il saxofono”（伊語）を、2009年に出版している。

## パオロ・ザンニーニ (Paolo Zannini)

イタリア・ペーザロの“F. モルラッキ”国立音楽院で最優秀の成績でディプロマを取得するとともに、アンコーナの“G. B. ペルゴレージ”音楽大学でも学ぶ。さらに、アルド・チッコリーニ (Aldo Ciccolini)、チャールズ・ローゼン (Charles Rosen)、イェルク・デムス (Jörg Demus) の下で学び完了する。

イタリア国内の重要なピアノコンクールに優勝しており、とりわけ、マリオ・マルツィ (Mario Marzi) とのデュオでは、国内外の12のコンクールに優勝するという、室内楽の分野において非常に名誉ある褒賞を受け取っている。

多才なピアニストは、ソリストとしてのリサイタルの他、イタリア内外の主要な室内楽の、多種多様な案サインブルと共演、イタリアのみならず、ドイツ、フランスをはじめとするヨーロッパ各地や、アメリカで演奏活動を行っている。とりわけ、ソリストとしては、イタリア国際オーケストラ (Orchestra Internazionale d' Italia)、マルケ州“プロ・アルテ”オーケストラ (Orchestra ProArte Marche)、ヴェネト州管弦楽団 (Orchestra Filarmonica Veneta) などと、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ガーシュウィンなどの楽曲を演奏している。

1998年から彼は、ミラノのスカラ座管弦楽団のソリストを主体に結成された室内楽のグループ“スカラ室内管弦楽団” (Ensemble Strumentale Scaligero) のメンバーでもあり、ミラノ・スカラ座をはじめとするイタリアの主要劇場のコンサート・シーズン、国際フェスティバル、さらには、日本、ロシア、スイス、ルーマニア、ポーランド、レバノンでのツアーにも参加しているほか、このアンサンブルのアレンジャーとしても活躍している。

彼は、Stradivarius、Delos、Arts、Velut Luna、Agorà、Bottega Discanticaで録音があり、その作品も、古典ものから現代音楽、20世紀の楽曲、アルゼンチン・タンゴ、ガーシュウィン、さらには、ミラノの音楽の夕べ (Sera Musicali) で、“マラソン・コンサート”として取り上げられ、イタリアの有力な他のピアニスト9人と共に実現した、ムツィオ・クレメンティ (Muzio Clementi) の“グラドゥス・アド・パルナッスム” (Gradus ad Parnassum) の全曲まで、幅広いレパートリーでの録音を残している。

## プログラム 1

### 現代の作曲家のプログラム

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| ・ G. フィットキン  | Bob                  |
| ・ C. ボッカドーロ  | Flori et herba       |
| ・ D. サルヴァトーレ | Helin                |
| ・ F. ザッパ     | FZ                   |
| ・ G. ソッリーマ   | Yafù                 |
|              | Spasimo Fragments    |
| ・ F. ダル・コロノ  | L'arte del funambolo |
| ・ E. ガランテ    | A sud di sud est     |
| ・ M. ナイマン    | Shaping thè curve    |

## プログラム 2

### フランス音楽の“クラシック”のプログラム

- |             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| ・ C. ドビュッシー | Rapsodie : ラプソディ                 |
| ・ A. ジョリヴェ  | Fantasie-impromptu : 幻想即興曲       |
| ・ D. ミヨー    | Scaramouche : スカラムーシュ            |
| ・ J. フランセ   | Cinq danses exotiques : 5つの異国風舞曲 |
| ・ F. シュミット  | Légende op.66 : 伝説               |
| ・ J. イベール   | Concertino da camera : 室内小協奏曲    |

## プログラム 3

### ラテンアメリカの作曲家のプログラム

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| ・ E. ジスモンチ   | Suite brasilian story |
| ・ J. ジロット    | Cacerolazo            |
| ・ H. ヴィラ=ロボス | Alma Brasileira       |
| ・ A. ピアソラ    | Tango suite           |
| ・ E. ナザレス    | Cavaquinho            |

## プログラム 4

### 異なったスタイルの現代作曲家のプログラム

- |              |                       |                            |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| ・ G. ソッリーマ   | Spasimo Fragments     | バ`リトン・サクソとピ`アノ             |
| ・ A. チューラ    | Deliverance           | ソフ`ラノ・サクソとテ`プ              |
| ・ D. サルヴァトーレ | Helin                 | アルト, ソフ`ラノ, バ`リトン・サクソとピ`アノ |
| ・ N. ローゼンバーグ | Maceo                 | バ`リトン・サクソ・ソロ               |
| ・ G. ソッリーマ   | Yafù                  | バ`リトン・サクソとピ`アノ             |
| ・ A. C. ジョビン | Water March           | ソフ`ラノ・サクソ・ソロ               |
| ・ E. ジスモンチ   | Suite brasilian story | サクソとピ`アノ                   |
| ・ A. ピアソラ    | Tango suite           | サクソとピ`アノ                   |